

# 平塚市 2024 年度の予算編成に対し 要望書を提出しました

神奈川県ネットワーク運動・平塚は、市の次年度予算編成に対し、毎年要望書を提出しています。今年度は 13 項目の要望を提出。2 項目を抜粋してご報告します。

## 子育て・子育て支援

◆本年 5 月 25 日提示された平塚市幼保一元化に関する公立園の見直し改訂版では、市内 4 エリアに公立の保育園もしくは認定こども園を 1 園ずつ配置する方針。神田保育園（田村）しらさぎ保育園（東中原）、港こども園（夕陽ヶ丘）、吉沢保育園（上吉沢）と土屋幼稚園を統合して認定こども園とする。若草保育園（横内）と大神保育園（大神）は当面公設公営として存続し、夕陽ヶ丘保育園、南原保育園は近い将来民営化するという。



地図上での 4 園化という市の計画はあまりにも乱暴で机上論とも思える。また短期間で行われた計画の見直しに、働く保育士や保護者の意見が反映されているのか。上吉沢の子こども園計画は、平塚初のこども園である港こども園の検証がなされた上でのものなのか。これまで公立保育園・幼稚園は、障がいや発達の遅れにより民間園では受け入れが難しい子どもを受け入れており、「障がいのある子どもにも共に育ちあい・学び合える環境づくり」に大きな役割を果たしてきた。

将来を担う子どもたちの命と健全な保育環境を守るため、セーフティネットの役割を担っている公立保育園の削減をもう少しゆるやかな形で行い地に足の着いた計画とすること。

◆近年、支援を必要とする子どもの増加が顕著になっており、子どもの特性を見極め適切な対応や配慮ができる環境づくりを更に積極的に進めることが必要。特性を持つ子どもへの対応として、保護者や保育園、幼稚園からの求め等に応じ巡回相談が行われているが、いわゆるグレーゾーンの子どもたちへの対応も含め、現場が日常的に気軽に相談できる体制づくりが必要。保育者が障がいや特性について学ぶ研修に参加しやすい環境づくりと共に、定期的に各園への巡回相談を行うなど柔軟な体制づくりを進めること。

## 電磁波被害から市民を守る

◆携帯電話の普及拡大と共に、中継基地局設置に伴う健康被害や近隣トラブルも身近なところで発生しており、設置された局から逃れるため持ち家を処分し住居を変えざるを得ない状況に当事者を追い込むケースもあり、深刻な事態を生んでいる。

携帯基地局設置による健康被害は以前から問題視され、県内では鎌倉市が 2010 年、携帯電話等の中継基地局設置に伴う市民と事業者との紛争を未然に防ぐため、設置計画の概要等を近隣住民に事前に行うこと等を求める「鎌倉市携帯電話等中継基地局の設置等に関する条例」が制定された。最近では二宮町が、今年 6 月の二宮町議会において同趣旨の条例制定を求める陳情が採択されたことを受けて、住民への説明や報告、町への報告を求める要請文を電気通信事業者 6 社に送付、また隣の大磯町においても同様の要請が昨年行われた。

平塚市においてもこれまで電磁波による影響と思われる体調不良を起こしている方々があり、改めてこの問題に目を向け対策を講じること。



◆成長過程にある子どもたちに及ぼす影響について危惧し、この間子どもたちを健康被害から少しでも守るための配慮、対策を求めてきた。電磁波が子どもたちに及ぼす影響について更に認識を深め、学校における対策を進めること。